

編集委員会便り

本会誌の編集実行委員会では、投稿された研究論文の審査も行っており、投稿件数も年々増加の傾向があります。寄せられた研究論文1件1件に2名の査読委員を決め、毎回の委員会に査読結果が報告され審議を行います。委員の方々の査読および審査はなかなか厳しいものです。投稿された論文には良いものが多いため、委員の方々も何とか質的向上を図った上で掲載までもっていかうと努力され、その結果が再査読、再々査読と厳しくなっている次第です。投稿者の方々並びに読者の方々、このような実情をご賢察の上、ご理解を賜わりたいと思います。このように厳しい審査をクリアされ掲載されることになった論文は、権威ある学会の評価を得たものであると自負していただいて良いのではないかと思います。

さて、研究論文の課題は、本学会で開催している恒例の「コンファレンス」、「研究発表会」であがってくるものもありますが、今回の「特集」はこれらの切り口になかった“光エネルギー利用技術”を取り上げることになりました。

光エネルギーはレーザー光に代表され、身近な利用ではコンパクト・ディスク（CD）、レーザー・ビデオ・ディスク、光ファイバー通信等小出力のものから、材料加工・溶接・切断用の大出力のものまで大変応用範囲が広い。

今回の特集では、本学会の性格上、一応エネルギー関連分野に的を絞って掲載することにしました。

レーザー技術が先端技術の一つとして種々の分野で応用されはじめてから久しく、筆者の会社でも遅まきながら電力への応用を目指して数年前に測距儀、気温分布計測、ガス漏れ検知等主に計測技術から研究に着手しましたが、光の波長・出力によって特徴を発揮し、光の干渉性、吸収性等の特性を把握するに従って大変おもしろいものであることが判ってきます。しかしながら、装置の小型化、経済性等実用化までにはまだ課題が多いものがあります。

今回の特集は、主にレーザー光の研究開発に専門に携わっている方々に現状の課題と共に、将来の夢を込めて執筆していただくようお願いしました。

今回の特集がレーザー光普及の一助となり将来のエネルギー高効率利用、高性能化等へ寄与できれば幸いです。尚、今回の特集を組むに当たって、ご多忙にもかかわらず執筆をご快諾いただいた方々、並びに執筆者へ中継ぎいただいた方々に厚くお礼申し上げます。

雑賀 幹 人

(元・関西電力㈱研究開発室調査室)